

翻訳者が作品と出会うとき

— 『翻訳文学紀行』 への誘い —



翻訳文学同人雑誌『翻訳文学紀行』の編集長である島田淳子氏と、同書第2巻の作成に携わった5名の翻訳者をお招きし、ユーゴスラヴィア、ルーマニア、朝鮮、日本（古文）、グアテマラと、時間・空間を越えて作品を媒介する翻訳の営みと意義について考えます。

登壇者

島田 淳子 『翻訳文学紀行』編集長

飯島 雄太郎 『鳩は飛んでいく』（ドイツ語文学 ユーゴスラヴィア）訳者

阪本 佳郎

『カリフォルニア、ソメシュ川の畔で』（ルーマニア語文学 ルーマニア）訳者

影本 剛 『古物哲学』（朝鮮語文学 朝鮮）訳者

南郷 晃子 『礦石集』（日本語（古文）文学 日本）訳者

鋤柄 史子

『時はシバルバーにて明ける』（スペイン語文学 グアテマラ）訳者

司会: 栢木 清吾 (神戸大学Promis協力研究員)

2021年 3月6日(土) 14:00~16:00

オンライン開催 (参加無料・要申込)

申込フォーム: <https://forms.gle/vcvfeykrQUWxfCSu9>

* Zoomによるオンライン開催となります。

* 参加ご希望の方は、3月4日までに上記フォームから参加申込を行ってください。

* 自動返信メールにてご登録いただいたメールアドレスにURLをお送りします。



お問い合わせ: kokon@panda.kobe-u.jp (南郷)

申込フォームQRコード

主催: 神戸大学国際文化学研究推進センター (Promis)

共催: 神戸大学国際文化学研究推進センター・移民研究プロジェクト「移民社会におけるセミパブリック・スペースの重要性とその利用実態に関する研究」(代表者: 栢木清吾)